



Harashin Narus  
Holdings



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年1月29日

上場取引所 東

上場会社名 原信ナルスホールディングス株式会社  
コード番号 8255 URL <http://www.hnhd.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 原 和彦

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役執行役員

(氏名) 山岸 豊後

TEL 0258-66-6711

四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	97,605	1.8	3,155	△5.0	3,390	△0.8	1,947	18.1
24年3月期第3四半期	95,925	2.7	3,323	△1.0	3,418	2.3	1,648	63.0

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 2,061百万円 (21.7%) 24年3月期第3四半期 1,693百万円 (73.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	111.16	—
24年3月期第3四半期	93.70	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	57,699	26,002	45.1	1,488.41
24年3月期	55,126	24,554	44.5	1,400.69

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 26,002百万円 24年3月期 24,554百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	10.00	—	20.00	30.00
25年3月期	—	10.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	24.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	128,000	1.0	4,000	△3.2	4,000	△5.8	2,000	13.8	114.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

詳細につきましては、本四半期決算短信【添付資料】5ページ「2 サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期3Q	18,014,239 株	24年3月期	18,014,239 株
25年3月期3Q	544,122 株	24年3月期	484,017 株
25年3月期3Q	17,520,779 株	24年3月期3Q	17,597,582 株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

本四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、本四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本四半期決算短信に記載されている業績見通し等の将来に関する事項は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、本四半期決算短信【添付資料】5ページ「1 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

【添付資料】

目次

	頁
1 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2 サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(四半期連結損益計算書)	8
(四半期連結包括利益計算書)	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する事項	11
(5) セグメント情報等	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
(7) 重要な後発事象	12
4 補足情報	13
(1) 生産、受注及び販売の状況	13

## 1 当四半期決算に関する定性的情報

文中における将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が判断したものであります。

なお、将来に関する事項につきましては、不確実性を有しており、将来生じる結果と異なる可能性がありますので、記載しております事項に対する判断は、以下記載事項及び本項目以外の記載内容も合わせて慎重に行われる必要があります。

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部で回復の兆しがうかがえたものの、国内外を問わず様々な問題が山積し、先行きに対する懸念が払拭されず、横ばいから下方への動きが見られました。

このような状況において、当第3四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高が976億5百万円（前年同期比1.8%増）、営業利益が31億55百万円（前年同期比5.0%減）、経常利益が33億90百万円（前年同期比0.8%減）、四半期純利益が19億47百万円（前年同期比18.1%増）となり、1株当たり四半期純利益は111円16銭となりました。

売上高および営業利益につきましては、以下に記載いたしますセグメント区分ごとの要因により変動しております。経常利益につきましては、営業利益の減少により減少しております。

四半期純利益につきましては、実効税率の低下に伴い増加しております。

セグメント区分ごとの業績を示すと、次のとおりであります。なお、各セグメントの業績値につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

#### ① スーパーマーケット

##### (全般)

前年同期における業界は、東日本大震災後の混乱から平常を取り戻す途上でありましたが、当第3四半期連結累計期間は消費が低迷する中で各社の新規出店が再開し、激しい価格競争が繰り広げられる厳しい状況となりました。

当社グループでは、長期計画「Advanced Regional Chain」及びこれに基づく中期計画の課題実現に向けて、策定した年度計画を着実に実行してまいりました。

##### (商品政策)

春季については、雪解けが遅く青果物の生育が遅れたことや、海水温が低下し水産物の不漁が続いたことで、生鮮品の相場が高めに推移いたしました。夏季については、前半気温が上がらず、後半残暑が厳しい上に長びき、季節品を中心に需要変化を的確に捉えることが非常に難しい期間が続きました。また、秋季については、気温が若干低めに推移し、降雪も早めに到来したことから、鍋物関連といった季節需要に的確に対応できたものの、長引く消費の低迷が尾を引き、好転には至りませんでした。

こうした状況に対し、一昨年から開始した「ニューコンセプト・パート2」に基づく、商品政策の深耕と既存店への展開は、着実に成果を挙げております。

また、当社グループの購買規模を活かし、お客様にとって価格以上の価値をもった商品を選定して集中販売する「チャレンジ商品101」の取り組みや、当社グループ内の食品製造機能を活かし品質を兼ね備えた独自の低価格商品「パワーアイテム」の拡販、新潟県の風土を生かし産地と連携してブランド化した「雪室屋」商品の販売、東日本大震災以降産地の被災で取扱いが滞っていたプライベート商品の取扱い再開が成果を挙げました。

##### (販売政策)

近年取り組んでいる販売計画の立案から結果の振り返りまでを体系化した週間管理の仕組みが、日々の店舗作業管理の仕組みと連動して、一層定着いたしました。

また、前連結会計年度より導入したSV（スーパーバイザー）制度によって、遠隔地であっても当社グループが目指す売場のレベルを一定に保つことが可能になり、好事例の展開や問題解決のスピードアップが図られるようになってまいりました。

これらにより、前年同期とは大きく異なる競合状況の変化にあっても、先を見据えた計画の立案や売場への具現化を実現し、販売実績の向上や生産性の改善を継続しております。

しかしながら、経済環境、気候変動、生鮮相場といった諸問題に起因するお客様の動向変化で、既存店売上高は前年同期に比べ1.6%減少いたしました。なお、全店売上高は新規出店や改装の効果が、前年同期に比べ1.6%増加いたしました。

店舗段階の売上総利益率につきましては、購買頻度の高いコモディティ商品を中心に、各地の競合状況を踏まえた

販売促進活動を強化したことなどにより、前年同期に比べ0.3ポイント低下し、24.2%となりました。

(コスト・コントロール)

作業計画と連動した労働時間管理や、ISO14001の環境マネジメントと連動した環境コストの削減を進めるほか、様々な形で経営資源の適正利用、使用量の削減の取り組みを継続しております。

また、前連結会計年度に導入した「あゆみノート」は、運用が定着し、投入労働時間当たりの効率数値やサービスレベルに向上の兆しが見え始めました。これは、従業員に配付した個人別成長記録のノートで、成長への道筋を体系的に明示し、これまでの振り返りや将来への目標を書き残して行くものです。これにより、個々の従業員が主体的に能力向上に取り組み、その結果、全体の生産性が向上することを目的としております。

この結果、販売費及び一般管理費の売上高に対する比率は23.0%となり、前年同期に比べ0.1ポイント改善いたしました。なお、金額の増加は、主に夏季の猛暑と秋季の長引いた残暑に伴う水道光熱費の増加や、冬季に備えての数店舗における大がかりな営繕実施による修繕費の増加、その他店舗数の増加に伴う諸経費の増加によるものであります。

(出店・退店等)

出店につきましては、原信黒埼店（6月・新潟県新潟市・売場面積2,086㎡）、原信寺島店（9月・新潟県長岡市・売場面積2,092㎡）、原信魚津店（10月・富山県魚津市・売場面積2,091㎡）の3店舗を新設いたしました。

改装につきましては、原信四日町店（12月・新潟県三条市・売場面積2,040㎡）について実施いたしました。

退店につきましては、該当事項はありません。

(業績)

当第3四半期連結累計期間の営業状況を示すと以下のとおりであります。

項目		当第3四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	前年同期比
店舗数		70店舗	3店舗増
店舗売上高	全店	92,586百万円	101.6%
	既存店	87,674百万円	98.4%
来店客数	全店	5,124万人	101.4%
	既存店	4,836万人	98.1%
買上点数	全店	10.51点	100.3%
客単価	全店	1,807円	100.2%

- (注) 1 店舗売上高及び客単価には、消費税等は含まれておりません。  
 2 店舗数は、当第3四半期連結会計期間末現在の設置店舗数であります。  
 3 既存店は、店舗開設より満13ヶ月以上を経過した店舗であります。  
 4 買上点数は、お客様一人当たりが一回のご来店でお買い上げになる商品数の平均であります。  
 5 客単価は、お客様が一回のお買い物でお買い上げになった金額の平均であります。  
 6 前年同期比は、年間各月の比率の平均値であります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるスーパーマーケット事業の売上高は971億30百万円（前年同期比1.7%増）、営業利益は28億95百万円（前年同期比8.4%減）となりました。

## ② その他

(清掃事業)

外部顧客向け及びスーパーマーケット事業向けの受託業務は堅調に推移し、売上高は前年同期に比べ1.8%増加いたしました。諸経費の増加により営業利益は前年同期に比べ2.8%減少いたしました。

(情報処理事業)

外部顧客向けの販売は、販路の拡大により増加いたしました。また、スーパーマーケット事業向けの販売が堅調に推移し、売上高は前年同期に比べ5.1%、営業利益は前年同期に比べ44.0%それぞれ増加いたしました。

(印刷事業)

外部顧客向けの販売及びスーパーマーケット事業向けの販売は、印刷需要が減少する厳しい環境にありながらも、前連結会計年度に導入した新規印刷機を活かした価値ある製品の販売や、きめ細かい営業活動により堅調に推移し、売上高は前年同期に比べ4.1%増加いたしました。前連結会計年度末に行った新規設備に係る減価償却費の増加で営業利益は前年同期に比べ14.1%減少いたしました。

(業績)

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるその他の事業の売上高は27億71百万円（前年同期比3.7%増）、営業利益は2億61百万円（前年同期比4.9%増）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## ① 財政状態の変動状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ25億73百万円増加し576億99百万円となりました。また、総負債は前連結会計年度末に比べ11億25百万円増加し316億96百万円、純資産は前連結会計年度末に比べ14億48百万円増加し260億2百万円となり、1株当たり純資産は1,488円41銭となりました。

各項目別の内容を示すと、次のとおりであります。

## (総資産)

流動資産は167億27百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億72百万円増加いたしました。これは主に、年末の需要期に係る売上増加と金融機関休業に伴う仕入債務の未決済残高増加によるものであります。この結果、流動資産の構成比は前連結会計年度末に比べ1.1ポイント増加し29.0%となりました。

固定資産は409億72百万円となり、前連結会計年度末に比べ12億1百万円増加いたしました。その内容は次のとおりであり、この結果、固定資産の構成比は前連結会計年度末に比べ1.1ポイント減少し71.0%となりました。

有形固定資産は、299億27百万円となり前連結会計年度末に比べ7億57百万円増加いたしました。これは主に、当第3四半期連結累計期間における新規出店3店舗と改装1店舗への投資によるものであります。

無形固定資産は、14億45百万円となり前連結会計年度末に比べ92百万円減少いたしました。これは主に、リース資産とのれんの償却によるものであります。

投資その他の資産は、95億99百万円となり前連結会計年度末に比べ5億35百万円増加いたしました。これは主に、新規出店に係る敷金及び保証金の増加によるものであります。

## (総負債)

流動負債は197億10百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億25百万円増加いたしました。これは主に、年末の金融機関休業に伴う仕入債務の未決済残高増加によるものであります。なお、流動負債の構成比は前連結会計年度末に比べ0.5ポイント減少し34.1%となりました。

固定負債は119億86百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億99百万円増加いたしました。これは主に、新規出店に伴い、リース債務が増加したことによるものであります。なお、固定負債の構成比は前連結会計年度末に比べ0.1ポイント減少し20.8%となりました。

## (純資産)

株主資本は255億52百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億34百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益の計上によるものであります。

その他の包括利益累計額は4億49百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億13百万円増加いたしました。これは、投資有価証券の時価変動により、その他有価証券評価差額金が増加したことによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.6ポイント増加し45.1%となりました。

## ② 連結キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ12億円増加し、79億13百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況を示すと、次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は42億87百万円となり、前年同期に比べ15億64百万円減少（前年同期比26.7%減）いたしました。

これは主に、前年同期に実施した給与支給対象期間と給与支給日変更の反動によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は18億16百万円となり、前年同期に比べ1億73百万円減少（前年同期比8.7%減）いたしました。

これは主に、当第3四半期出店店舗3店舗がいずれもリース物件だったことにより、有形固定資産の取得による支出が前年同期に比べ5億90百万円減少（前年同期比29.9%減）となったことによるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は12億70百万円となり、前年同期に比べ7億48百万円減少（前年同期比37.1%減）いたしました。

これは主に、長期借入金の約定返済が進み、長期借入金の返済による支出が前年同期に比べ6億89百万円減少（前年同期比18.9%減）となったことに加え、次期以降の出店計画等を勘案し、長期運転資金の調達を行ったことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

業績は概ね当初想定した状況で推移しており、連結業績予想の修正はありません。

## 2 サマリー情報（注記事項）に関する情報

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当四半期連結累計期間において、連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

当四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表規則に規定する「四半期連結財務諸表作成に特有の会計処理」の適用はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ25百万円増加しております。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,715	7,915
受取手形及び売掛金	585	812
リース投資資産	2,044	1,918
商品及び製品	2,680	3,164
仕掛品	18	33
原材料及び貯蔵品	140	155
未収還付法人税等	150	134
繰延税金資産	687	318
その他	2,349	2,282
貸倒引当金	△17	△9
流動資産合計	15,355	16,727
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	11,899	11,655
機械装置及び運搬具(純額)	591	479
土地	13,538	13,785
リース資産(純額)	1,541	2,165
建設仮勘定	428	475
その他(純額)	1,169	1,366
有形固定資産合計	29,170	29,927
無形固定資産		
のれん	47	0
リース資産	132	55
その他	1,356	1,389
無形固定資産合計	1,537	1,445
投資その他の資産		
投資有価証券	1,530	1,696
長期貸付金	38	21
繰延税金資産	1,554	1,395
敷金及び保証金	4,943	5,534
その他	1,002	957
貸倒引当金	△5	△5
投資その他の資産合計	9,063	9,599
固定資産合計	39,771	40,972
資産合計	55,126	57,699

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	9,100	11,309
短期借入金	200	600
1年内返済予定の長期借入金	3,692	3,093
リース債務	490	370
未払法人税等	912	135
ポイント引当金	6	6
役員賞与引当金	96	79
賞与引当金	967	497
その他	3,619	3,618
流動負債合計	19,085	19,710
固定負債		
社債	1,000	1,000
長期借入金	2,759	2,692
リース債務	2,093	2,714
資産除去債務	2,490	2,545
長期預り保証金	2,854	2,745
その他	288	287
固定負債合計	11,486	11,986
負債合計	30,571	31,696
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,159	3,159
資本剰余金	6,405	6,405
利益剰余金	15,238	16,660
自己株式	△585	△672
株主資本合計	24,218	25,552
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	336	449
その他の包括利益累計額合計	336	449
純資産合計	24,554	26,002
負債純資産合計	55,126	57,699

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	95,925	97,605
売上原価	70,394	71,994
売上総利益	25,530	25,610
販売費及び一般管理費		
ポイント引当金繰入額	6	6
従業員給料	3,662	3,691
雑給	6,252	6,445
役員賞与引当金繰入額	72	79
賞与	921	931
賞与引当金繰入額	457	464
賃借料	57	63
地代家賃	1,908	1,965
減価償却費	1,743	1,431
のれん償却額	79	47
貸倒引当金繰入額	10	0
その他	7,035	7,327
販売費及び一般管理費合計	22,207	22,454
営業利益	3,323	3,155
営業外収益		
受取利息	40	48
受取配当金	25	25
受取保険金	134	168
その他	65	98
営業外収益合計	265	341
営業外費用		
支払利息	107	78
寄付金	32	—
その他	30	29
営業外費用合計	170	107
経常利益	3,418	3,390
特別利益		
固定資産売却益	—	34
特別利益合計	—	34
特別損失		
固定資産除却損	79	20
投資有価証券評価損	14	10
特別損失合計	93	30
税金等調整前四半期純利益	3,325	3,393
法人税、住民税及び事業税	1,211	980
法人税等調整額	465	464
法人税等合計	1,676	1,445
少数株主損益調整前四半期純利益	1,648	1,947
四半期純利益	1,648	1,947

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,648	1,947
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	45	113
その他の包括利益合計	45	113
四半期包括利益	1,693	2,061
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,693	2,061
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,325	3,393
減価償却費	1,819	1,614
のれん償却額	79	47
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	10	△8
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△0	△0
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△7	△16
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△395	△469
受取利息及び受取配当金	△65	△74
支払利息	107	78
投資有価証券評価損益 (△は益)	14	10
固定資産売却損益 (△は益)	—	△34
固定資産除却損	79	20
売上債権の増減額 (△は増加)	△169	△227
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△680	△513
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,984	2,208
未払又は未収消費税等の増減額	△119	17
リース投資資産の増減額 (△は増加)	△190	125
その他	1,217	△124
小計	8,009	6,047
利息及び配当金の受取額	27	28
利息の支払額	△100	△72
法人税等の支払額	△2,085	△1,715
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,851	4,287
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△0	△0
有価証券の取得による支出	△0	—
有価証券の売却による収入	0	—
有形固定資産の取得による支出	△1,974	△1,383
有形固定資産の売却による収入	—	156
無形固定資産の取得による支出	△109	△64
投資有価証券の売却による収入	4	—
貸付けによる支出	△41	△7
貸付金の回収による収入	43	28
その他	87	△544
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,989	△1,816
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	2,000	400
長期借入れによる収入	600	2,300
長期借入金の返済による支出	△3,655	△2,965
リース債務の返済による支出	△487	△394
自己株式の取得による支出	△91	△87
配当金の支払額	△385	△523
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,019	△1,270
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,842	1,200
現金及び現金同等物の期首残高	6,227	6,713
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	88	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,158	7,913

## (4) 継続企業の前提に関する事項

当第3四半期連結会計期間（自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日）  
該当事項はありません。

## (5) セグメント情報等

## 【セグメント情報】

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

	報告セグメント		その他 (百万円)	合計 (百万円)
	スーパー マーケット (百万円)	計 (百万円)		
売上高				
外部顧客に対する売上高	95,470	95,470	455	95,925
セグメント間の内部売上高又は振替高	41	41	2,217	2,258
合計	95,511	95,511	2,672	98,184
セグメント利益	3,159	3,159	249	3,408

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理事業、清掃事業、印刷事業等を含んでおります。

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

	報告セグメント		その他 (百万円)	合計 (百万円)
	スーパー マーケット (百万円)	計 (百万円)		
売上高				
外部顧客に対する売上高	97,074	97,074	531	97,605
セグメント間の内部売上高又は振替高	56	56	2,240	2,296
合計	97,130	97,130	2,771	99,901
セグメント利益	2,895	2,895	261	3,156

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理事業、清掃事業、印刷事業等を含んでおります。

## 2 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

利益	前第3四半期累計期間	当第3四半期累計期間
報告セグメント合計	3,159百万円	2,895百万円
「その他」の区分の利益	249百万円	261百万円
セグメント間取引消去	△9百万円	3百万円
全社費用	△958百万円	△979百万円
その他の調整額	882百万円	975百万円
四半期連結損益計算書の営業利益	3,323百万円	3,155百万円

(注) 1 セグメント間取引消去は、主にセグメント間の固定資産売買によって生じた未実現利益に係る調整であります。

2 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社（持株会社である当社）に係るものであります。

3 その他調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社（持株会社である当社）に対する経営指導料支払額の消去であります。

3 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

この変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「スーパーマーケット」のセグメント利益が25百万円増加し、「その他」のセグメント利益が0百万円増加しております。

4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

該当事項はありません。

## 4 補足情報

## (1) 生産、受注及び販売の状況

## ① 販売実績

(単位 百万円、%)

項目		前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)		前年同期比		
		売上高	構成比	売上高	構成比	金額	比率	
スーパーマーケット	生鮮食品	青果	11,833	12.1	12,051	12.1	218	101.8
		精肉	10,591	10.8	10,620	10.6	29	100.3
		水産	8,738	8.9	8,708	8.7	△30	99.7
		惣菜	8,970	9.1	9,156	9.2	186	102.1
		計	40,133	40.9	40,537	40.6	404	101.0
	一般食品	デイリー	17,712	18.0	18,335	18.4	622	103.5
		加工食品	27,340	27.9	27,895	27.9	555	102.0
		インスタアペーカリー	1,395	1.4	1,403	1.4	7	100.5
		計	46,448	47.3	47,633	47.7	1,185	102.6
	住居	4,325	4.4	4,227	4.2	△98	97.7	
	衣料品	181	0.2	165	0.2	△15	91.6	
	その他	211	0.2	188	0.2	△23	89.1	
	営業収入	4,169	4.3	4,320	4.3	150	103.6	
セグメント間の内部売上高又は振替高	41	0.0	56	0.0	14	135.1		
	小計	95,511	97.3	97,130	97.2	1,618	101.7	
その他	外部顧客に対する売上高	455	0.5	531	0.5	75	116.7	
	セグメント間の内部売上高又は振替高	2,217	2.2	2,240	2.3	23	101.0	
	小計	2,672	2.7	2,771	2.8	99	103.7	
	合計	98,184	100.0	99,901	100.0	1,717	101.7	

## ② 仕入実績

(単位 百万円、%)

項目		前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)		前年同期比		
		仕入高	構成比	仕入高	構成比	金額	比率	
スーパーマーケット	生鮮食品	青果	9,385	13.2	9,557	13.1	172	101.8
		精肉	8,009	11.2	8,086	11.1	77	101.0
		水産	6,636	9.3	6,542	9.0	△94	98.6
		惣菜	5,373	7.5	5,583	7.6	209	103.9
		計	29,404	41.2	29,769	40.8	364	101.2
	一般食品	デイリー	13,179	18.5	13,775	18.9	595	104.5
		加工食品	22,496	31.5	22,747	31.2	251	101.1
		インスタアペーカリー	641	0.9	652	0.9	10	101.6
		計	36,317	50.9	37,175	51.0	857	102.4
	住居	3,464	4.9	3,430	4.7	△34	99.0	
	衣料品	128	0.2	122	0.2	△6	95.3	
	その他	166	0.2	159	0.2	△6	96.2	
	リース原価	140	0.2	166	0.2	25	118.3	
セグメント間の内部仕入高又は振替高	158	0.2	155	0.2	△2	98.3		
	小計	69,780	97.8	70,979	97.3	1,199	101.7	
その他	外部取引先からの仕入高	1,386	1.9	1,655	2.3	268	119.4	
	セグメント間の内部仕入高又は振替高	208	0.3	277	0.4	69	133.2	
	小計	1,594	2.2	1,932	2.7	337	121.2	
	合計	71,374	100.0	72,911	100.0	1,536	102.2	

(注) セグメント間の内部取引高を含めて表示しており、消費税等は含まれておりません。